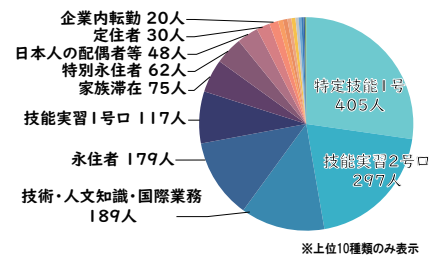


■北上市の外国人在留資格別登録者数(令和7年11月末時点)



外国人が日本で暮らすためには「在留資格」が必要です。これは、働く、学ぶ、家族と暮らすなど、目的に応じて決められた資格で、日本に入国して在留する際に必要な条件や制限を定めたものです。

例えば、働くために来る人は、まず日本の企業と契約を結び、出入国在留管理局に申請します。審査を受け、許可が下りて初めて日本での生活が始まります。

外国人にとって在留資格は、日本で暮らすための第一歩。ここからは、一部の在留資格を紹介します。身近にいる外国人は、いったいどんな資格で滞在しているのでしょうか。

**ともに暮らすための第一歩
在留資格を知ろう**



あなたと私のまち 北上市の多文化共生

当市で暮らす外国人市民は、年々増加しています。文化や言葉の違いはありますが、同じまちで働き、暮らす仲間です。まずは、市内で生活する外国人や、彼らを支える取り組みについて知り、これから、さらに身近になる「多文化共生」について、一緒に考え、そして行動してみませんか？

北上市で暮らす外国人市民は…

30カ国 1,485人

(令和7年11月末時点)



多文化共生とは「国籍や民族の違いに関わらず、全ての人がお互いの文化や考え方を理解し、地域の一員として一緒に暮らしていく」といわれています。

多文化共生を実現するために、外国人市民がどんな経緯で日本に来て、どんな仕事や生活をしているのか、そして彼らを支える取り組みを知ることが大切です。

多文化共生とは

多文化共生とは「国籍や民族の違いに関わらず、全ての人がお互いの文化や考え方を理解し、地域の一員として一緒に暮らしていく」といわれています。

多文化共生を実現するために、外国人市民がどんな経緯で日本に来て、どんな仕事や生活をしているのか、そして彼らを支える取り組みを知ることが大切です。

当市には、現在1,485人(11月末時点)の外国人が暮らしており、その数は年々増加しています。

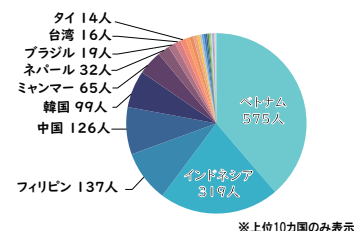
国別の内訳を見ると、多い順にベトナム575人、インドネシア319人となり、アジアの国々を中心に30カ国の人が暮らしています。

外国人市民の増加は、地域の産業を支える力となる一方で、文化や習慣の違いから、生活の中で誤解が生じることもあります。例えば、ごみ出しのルールや地域の慣習など、私たちにどうして当たり前のことが、外国人市民には分りにくい場合があります。

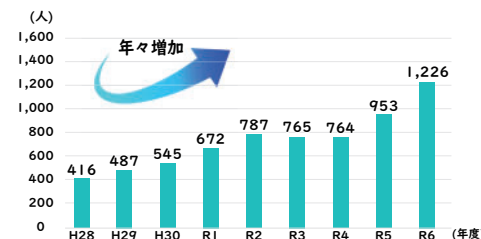
誰もが気持ちよく暮らせるまちにするためには、お互いの文化や習慣を理解し合うことが大切です。こうした背景から、今後ますます「多文化共生」を、考えることが必要になってきます。

広がる国際化 北上市の外国人登録状況

■北上市の外国人別登録者数(令和7年11月末時点)



■北上市の外国人市民登録者数(3月末時点)



技術・人文知識・国際業務



理学や工学などの技術者や通訳などの専門的な知識やスキルを要する業務に就く者。学歴や仕事内容の関連性、実務経験が主な要件。

技能実習1号・2号・3号



日本で習得した技能を母国へ持ち帰り、その国の発展に貢献することを目的とする者。検定試験に合格すると2号・3号へ移行できる。

特定技能1号・2号



特定産業分野(介護や農業など16分野)の知識や経験が必要な業務(1号)または熟練した技能が必要な業務(2号)に従事する者。

家族滞在



日本で就労や留学など、特定の活動をしている外国人の扶養を受ける配偶者や子。

永住者



素行の善良さや、独立して生活ができるなどの要件を満たし、法務大臣から永住の許可を受けた者で、無期限で日本に滞在することができる。

在留資格は全部で29種類あります。それぞれの資格に在留期間が定められており、更新を重ねることもできます。ここでは一部を紹介しましたが、もっと知りたいという人は出入国在留管理庁のホームページをご覧ください。

ホームページはこちら



**知っていますか？
外国人も住民登録をしています！**

日本で生活の第一歩を支える

Interview



㈱ハンブーコネクト
代表取締役
高橋 範行さん

私たちは外国人の皆さんが、日本に来て安心して生活できるように、住民登録の手続きから銀行口座の開設、携帯電話の契約まで、包括的なサポートを行っています。また、企業にとっても、外国人を初めて受け入れる際には不安があります。そこで、企業向けに複数回の説明会などを実施するほか、事務面や生活面などのサポートにも一緒に取り組んでいます。

企業や地域との関わりが増える中で、文化や習慣の違いからお互いに誤解が生じることもあります。しかし、外国人の多くは地域との交流を望んでおり、全国的な調査では9割以上がイベントや関わりを希望しています。私たちは、地域と外国人の間に立ち、双方の不安を解消しながら、声を掛け合える関係づくりを目指しています。

今後は、外国人と日本人をつなぐイベントをさらに増やし、相談しやすい環境を整えていきたいと考えています。お互いを理解し、支え合うことで、北上市はもっと暮らしやすいまちになります。



市役所でのマイナンバー手続き



日本語教室

助成：(一財)自治体国際化協会

日本語学習をきっかけに、日本人と外国人の相互理解を促し、信頼関係を構築することなどを目的に、全12回の日程で開催。日本文化の体験のほか災害や医療など、生活に役立つ学習をしました。



日本語教室パートナー養成研修会

助成：(一財)自治体国際化協会

外国人の日本語学習支援者として必要な基礎知識や会話の手法を学ぶ講座として全4回開催。日本語教育コーディネーターや日本語教師が講師を務め、参加者は学びを深めました。



北上市国際交流ルーム

日本に住む外国人の生活や言葉のサポートをはじめ、日本人向けの外国語講座や、外国と日本をつなげる各種イベントの企画を行っています。外国語講座の受講生、ボランティア会員も随時募集しています。



ワン・ワールドフェスタ

主催：国際都市推進きたかみ市民会議

5カ国の飲食ブースが並び、世界の味を堪能できたほか、演奏やダンス、歌が披露されました。外国人は自分たちの文化を発信でき、日本人にとっても異文化を体験できる機会となりました。



多文化共生フォーラム

市が策定を進める北上市多文化共生プランの方針を共有するとともに、多文化共生の取り組みの現状や課題、他地域の事例を学びました。また、岩手大学国際教育センターの松岡洋子教授の講演や、ワークショップが行われました。



きっかけづくりプロジェクト

主催：(一社)北上市国際交流協会

外国人と日本人が文化的違いを理解し、共に住みよいまちづくりを目指すために開催。ごみの仕分けなど、生活する中で困っていることをテーマに全4回のワークショップを実施しました。



(一社)北上市国際交流協会
代表理事
薄衣 景子 さん

一般社団法人北上市国際交流協会の日本語学習支援を受け、地域で活躍の場を広げているのは、インドネシア出身のティノ・ハルティンさんとフサイン・アルカエダさんです。

二人は2022年に来日し、現在は市内の企業で働いています。来日当初は日本語が思うように話せず不安でしたが、協会とつながり少しずつ日本語が上達。ティノさんは「会社の上司に相談して、薄衣さんと出会って本当に良かった。通わなかったらこんなに話せなかった」と振り返ります。

また二人は、ワン・ワールドフェスタでのイベント出演を皮切りに、日本人混合バンド「FUTU」を結成。市内外のイベントに出演しています。その他にも、フサインさんはピアノ教室に通い、ティノさんは地域のバドミントンクラブに所属し、交流を広げています。

同協会代表理事の薄衣景子さんは「趣味をきっかけに地域に溶け込む二人の姿は、ほかの外国人にとっても良い見本です」と目を細めます。

二人は「日本語をもっと上手になりたい」「地域の人と交流したい」と話し、「国際イベントやインドネシア料理を食べる機会が増えたらうれしい」と笑顔で語ります。



右：ティノ・ハルティンさん (24歳)
左：フサイン・アルカエダさん (24歳)



株式会社アジテック
代表取締役社長
中村 達也 さん

市内で業務用調味料を製造する株式会社アジテックで働くのは、ミャンマー出身の夫婦コ・コリンさんです。

人手不足を背景に、同社は2023年から外国人採用に踏み切り、二人は同年8月から勤務。当初は専門用語に苦労しましたが、周囲が分かりやすく説明してくれたことで安心できたと言います。スズは「新しいスキルを身につけられるのがうれしい」と笑顔を見せます。

また、昨年二人は難関の在留資格「特定技能2号」にそろって合格。在留期間に上限がなく、家族滞在も可能となる資格を得たことで、母国に残る子どもを日本に呼べる希望も生まれました。コ・コリンは「息子を呼んで一緒に暮らし、温かい職場で働き続けたい」と力強く語ります。

同社代表取締役社長の中村達也さんは「二人は勤勉で真面目。日本人と同じ感覚で働いてくれ、職場に良い刺激を与えてくれている。外国人人材は企業にとって欠かせない存在」と話します。

二人は地域イベントにも興味を示しており、「地域のイベントをもっと知りたい」と前向きな姿勢です。



右：コ・コリンさん (38歳)
左：ストウ・ウエさん (35歳)

違いを認め合い

誰もが自分らしく活躍できるまち

北上市へ



あなたの「気付き」や「行動」が、まちづくりにつながります

市は、性別や年齢、国籍などの違いにかかわらず、全ての人が人権を尊重され、対等な立場で社会に参画し、個性や能力を発揮できる社会の実現を目指しています。

この実現に向けて、「北上市多文化共生指針」では、「外国人と日本人がお互いに快適に暮らすことができるまち」を基本理念とし、関係団体などと連携・協力しながら取り組みを行ってきました。

このたび、指針の対象期間が終期を迎えることから、新たに施策の方向性を定める「北上市多文化共生プラン」の策

定を進めています。

これまでの、多文化共生フォーラムや関係団体への聞き取りで寄せられた意見をプランに反映させ、今後パブリックコメント（市民などからの意見募集）を実施する予定です。多文化共生のまちづくりは、市だけでなく、地域に暮らす一人一人の関わりから始まります。特別な知識や語学力は必要ありません。まずは、あいさつを交わすことから始めましょう。あいさつがお互いの心をつなぎます。

■問い合わせ…地域づくり課 ☎0197-72-8300